

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

共に過ごす存在（観察・飼育）／学校法人中沢学園 みなみ若葉こども園（福島県）

子どもたちが興味を深め、大切に世話をしている生き物はいますか？自分たちで観察し、成長や変化、異変に気づき、伝え合う姿はありますか？今回は、イモリの飼育を通して、イモリと自分たちと重ね合わせたり、違いを意識したりしながら、イモリへの理解を深めていく事例をご紹介します。



### ● 「イモリの赤ちゃんなの？」／4歳児

#### ✦ きっかけ／5月

近隣の田んぼと自然園の池で、子どもたちはイモリを発見し捕まえた。以前からクラスで飼っているイモリ同様、みんなで飼育することになる。早速、イモリを観ながら、「うわあ、登っている！」「イモリかわいい！頑張って登ろうとしているね！」と言う。「カエルみたいに、首のあたりをピクピク動かして息を吸っている。上に登りたがるのは息をしたいからかな？」「お腹、赤くて血みたい」「なんか臭い気がする」「カエルはすぐに登れるけど、イモリは一生懸命登らないと滑っちゃうみたいだね！」と、気付いたことや思ったことを話す。



#### ✦ 身体を見て気付いたことや思ったことを話し合う [好奇心・探求心]／5月

- 餌があるのになかなか食べない。食べる姿を見たくて、爪楊枝などで餌を口の近くに持っていくと、「パクッ」と食べる。「力が強い！グイって引っ張ったよ」「大好きなんだね」「いっぱい食べて大きくなってね」などと言う。
- 「ほら！こうやって掴むと掴めるでしょ？痛くないように、そーっと優しく」「かりん組のイモリと同じイモリだね！」「イモリはお腹が赤くて、水に住む。ヤモリは身体が茶色で土の上（陸地）に住んでいるんだって！」「手の指は前足が4本で後足の指は5本。指の間にビロビロ（水かき）が付いている」と言う。それぞれが興味をもち考え始め、不思議に思うと「なんで？」などと、様々な意見が出て、クラスの話合いが盛り上がる。友達と一緒に想像を交えながら話したり考えたりすることで、一層、生き物の面白さや関わる楽しさを感じている。



## ✿ 家作り [気付く、環境を変える] /5月

- 歩きにくい様子で何度も何度も上り降りするイモリの姿を見ていたDちゃんが、滑って登りにくいことに気づき、「外に出たいみたい?!」「滑って登れないみたい、どうしたら登れるかな?」と考える。生き物に詳しいDちゃんが、「草とか石を入れたらいいよ!」と言い、みんなが合意した。水草や砂利を入れると、イモリの動きが活発になることを見て喜ぶ。「元気に歩いているよ!石の上はツルツルしないから、滑らなくなって良かったね」「葉っぱ(水草)に登れた」と言い、イモリの様子の変化を見ることを楽しむ。
- 毎日、気にかけて観察を続けると、水槽の水の色が変わっていることに気付く。「なんかイモリのお水が汚いよ!おしっこしたのかも?」「ここに茶色いのがくっ付いている。ウンチ?汚い!」「イモリもウンチするの?なんで?」Fちゃん「僕も朝ウンコした(笑)」保育者「朝のいつ?」Fちゃん「うーんと、ご飯食べてから」保育者「Fちゃんのご飯を食べるとしたくなる?」Fちゃん「あっ!イモリも餌を食べたからウンコしたんじゃない?」Jちゃん「じゃあ、きれいにしてあげようよ!」Jちゃん「お尻もふく?」Fちゃん「それは(やらなくて)いいでしょ(笑)」

## ✿ 暑いから [考える(思いやりの芽生え)] /5月

- いつもと違う様子に気付く子どもがいる。「あれ?隠れている。元気ないのかな…」「暑いから疲れたのかも」と、自分たちが暑いと感じたことをイモリに重ねて、イモリの気持ちを考えていた。
- プール活動の経験から水の気持ちよさを感じ、イモリにも気持ちよさを感じてもらいたいという思いがある。水の汚れに気づき「交換してあげよう」という意見から水を換えた。きれいな水の方が気持ちよさそうなイモリの様子を感じ、住みやすい環境を整える大切さを改めて知ったようだ。

## ✿ 産卵・孵化 [思いの伝え合い] /6月上旬

「お腹がおっきいね!ご飯をいっぱい食べたんだね!」「どれどれ?見せて」と、話題になった翌日、水槽の中を覗くとGちゃんが、水草に付いている複数の丸く白いものを見つけた。Gちゃんが水槽の中の変化に気が付いたことで、周りの友達も反応し様子を見ていた。「黒い丸があるよ!」「やっぱりウンチ?」「卵に見える!」と言う。

Gちゃん:「これはきっとイモリのウンチだよ!」

保育者:「どうしてウンチだと思ったの?」

Gちゃん:「だって昨日捕まえてきた時に、お腹が大きかったでしょ?だからウンチがお腹にあって葉っぱの上でウンチをしたんだよ!」

Gちゃん:「ウンチは色が黒いから、きっとウンチだね!」

Hちゃん:「でも、この下に黒いのもあるよ!」

Gちゃん:「どれどれ?!」

Hちゃん:「この黒いのがウンチだから、これはイモリの卵だよ!!」

Hちゃんは、卵だということに気が付いた。



## ✿ イモリの赤ちゃんなの? [発見・驚き] /6月中旬

- “ツブツブ”<sup>※</sup>を見付けてから5日後、卵の中の形が変わり、黒い丸から変形し長細い形になっている。「何かの虫みたい!黒い丸が虫になった!」「やっぱり卵だったのかも!?!」とよく見て話す姿がある。
- ツブツブから赤ちゃんへ、様子が変わっていくことに気付く。「黒い丸がある!ウンチかな?」「あれ?ミズみたいになった!」「しっぽみみたいなのがクルンって丸まってる」「白い丸がある!ここから出てきたんだ!」「小さくてかわいい」「中から出てきたから、泳げるようになったんだね」と伝える。
- メダカの図鑑を見ても「これは卵の色が違うよ」「メダカみたいなしっぽがない」『メダカの赤ちゃんではない』ということが分かった。



※小さなツブツブの状態

- 白い膜に覆われている
- 中には黒い点のようなものが入っている
- 全部で10数個水草や飼育箱の底に付いている
- 大きさは約3～5ミリ程

## ✿ イモリの赤ちゃんの成長 [発見・驚き] /7月上旬

子どもたちは、よく見て、気付き、どうして？と疑問をもっている。考えることも大切だが、考えるだけでは心が動かないので、見る、触る、思いを巡らす、調べることで分かった時の喜びを感じているようだ。

Iちゃん：（赤ちゃんイモリを虫眼鏡で見て顔があることに気が付き）「見て！イモリの赤ちゃん、目が付いてるよ！」

Hちゃん：「どれどれ見せて？」

Iちゃん：「ほら口はここ！手も付いてる！」

Hちゃん：「小さいし、かわいいね」

保育者：「これは手なの？」

Iちゃん：「そうだよ！手は付いてるけど…あれ？大きいイモリには足があるけど赤ちゃんイモリには足がないよ？」

Hちゃん：「えっ？なんで足はないの？しっぽがあるから？」

Iちゃん：「え？これはしっぽ？おしりでしょ？」



## ✿ その後の姿とまとめ

イモリに対する視野の広がりとともに、イモリだけでなく自分たちも心地良く生活するためには、どうしたらよいかを考えるようになった。「みんなのお部屋も、きれいにしなきゃね！」と環境を整える大切さを感じることができ、「イモリの世話」という段階から「共に過ごす存在」へと変わり、自分たちの生活と重ねて、よいことは取り入れようとする姿になった。この変容は、幼児期にとっても大切な成長だと考える。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」